



お品書き

- 【その吉】 CODEレター VOL.30
- 【その式】 プロジェクトニュース
- 【その参】 インドネシアのチラシ
- 【その四】 国際機関訪問ツアーのチラシ

以上

2006年度総会報告

6月17日(土)、三宮のサロン・ド・あいりにて2006年度総会が開催されました(右下写真)。正会員17名、オブザーバー6名の合計23名が出席しました。2003年12月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証後、3回目の総会です。

議案である2005年度の事業報告・決算、2006年度事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。

2006年度の主な事業予定をご紹介します。災害救援活動として、イラン支援、アフガニスタン支援、スマトラ沖地震津波支援など継続支援中の救援プロジェクトは、引き続き取り組みます。2005年10月に発生したパキスタン北東部地震、2006年2月のフィリピンレイテ島地滑り、さらに、5月のジャワ島中部地震の支援活動も行います。また、支援が必要とされると判断される災害が発生した場合は、随時救援活動を立ち上げていきます。

セミナー・勉強会として、各分野の講師を招く、『N GOことはじめセミナー』や神戸市内にある国際機関を訪問する『HAT神戸 国際機関訪問ツアー』を実施します。「予防防災」や協同組合の研究会も引き続き行います。さらに、ボランティア文化の普及、定着のため、毎月ボランティアの日を運営する予定です。

また、災害関連情報の収集及び発信事業として、災害情報サイト(CODE World Voice)の運営も引き続き行います。

最後に、今後ともみなさまからのご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

< 2006年度運営体制 >

- 代表理事：芹田 健太郎 神戸大学名誉教授/愛知学院大学教授
- 副代表理事：室崎 益輝 神戸大学名誉教授/
消防庁消防大学校消防研究センター所長
- 副代表理事：水野 雄二 (財)神戸YMCA総主事
- 理事：黒田 裕子 支援プログラム部会長/阪神高齢者支援ネットワーク理事長
- 理事：島田 誠 アートサポートセンター神戸代表
- 理事：西 正興 (株)神戸スイーツサポート相談役
- 理事：野崎 隆一 ガイドライン部会長/神戸まちづくり研究所事務局長
- 理事：秦 正雄 市民参画部会長/コープこうべ常勤理事
- 理事：樺木 恵子 人材育成部会長/関西NGO協議会事務局長
- 理事：藤野 達也 (財)PHD協会総主事代行
- 理事：松本 誠 市民まちづくり研究所所長
- 理事：村上 忠孝 財務部会長・村上環境住宅研究所所長
- 理事：吉富 志津代 多言語センターFACIL代表
- 監事：中川 和之 時事防災リスクマネジメントWeb編集長
- 監事：飛田 雄一 (財)神戸学生青年センター館長
- 理事兼事務局長：村井 雅清 被災地NGO協議センター代表

本年度もよろしくお願ひ致します！



(総会の様子 2006年6月17日)

2005年度災害救援プロジェクト報告

アフガニスタン救援プロジェクト

【2002年7月17日からの継続事業】

2002年7月に立ち上げられたアフガニスタンぶどう畑再生プロジェクトは、3年が経過しました。

1年目のぶどう基金の貸し付け家族は288世帯。2年目に112世帯が借りた基金の一部を返金し、そのお金で新たに112世帯に貸し付けました。3年目は12世帯が返金し、新たに12世帯に貸し付けたので、3年間で合計412世帯のぶどう家族がぶどう基金をもとにぶどう畑を再生しています。ぶどう畑再生支援の他に、ぶどうの生育に必要な水を得るためのカレズ（地下水脈）清掃や村の女子学校の支援も行いました。

プロジェクトに賛同するぶどうオーナー（ぶどう基金の会員）の数が年々増え、昨年度会員数は656人になりました。国内でも支援の輪が広がっています。



（春のぶどう畑 2006年4月）

アルジェリア地震救援プロジェクト

【2003年5月23日からの継続事業】

引き続きクワテモックさん（メキシコクワテルロコ住民連絡会議・CODE海外研究員）を通じて情報収集し、検討してきましたが、適当なカウンターパートを見つけるに至っていません。来年度も引き続き情報収集を継続します。

イラン地震救援プロジェクト

【2003年12月26日からの継続事業】

イラン南東部バムへの支援を開始して2年が経過しました。2005年度の活動は、パートナー団体である現地NGO、AHKK（働く子どもを守る会）と連携して、被災地バムでAHKKセンターを運営しています。

AHKKセンターでは、音楽教室、裁縫教室、織物教室、人形劇の教室が開かれています。音楽教室では、サイド先生による子どものための音楽教室（週3回）と音楽教師のための養成教室（週1回）が開かれていて、12月にテヘランで500人以上の観客を前に子どもたちのコンサートが行われました。

子どものための音楽教室では、養成教室に通っている生徒が実習でサイド先生に代わり、12月から

週1回担当しています。センター内にある体育館はCODEの支援で完成し、子どもたちの音楽コンサートや人形劇などのために現在使用されています。



（体育館での音楽コンサートの様子 2005年11月）

デーツプロジェクトは、地場産業であるバムのデーツ（なつめやし）産業が不景気なので、今年度は売り上げにつながりませんでした。現在デーツを保存しており、時期をみて販売する予定です。



（デーツの木 2005年7月）

スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト

【2004年12月26日からの継続事業】

スマトラ沖で発生した地震とそれに伴う津波の被災地への支援を開始して1年が経過しました。主にスリランカで、防災教育支援、幼稚園・保育園再建支援・漁業組合の支援を行っています。

防災教育では、CODEとYMCAの防災教育に携わる国連ボランティア2名をスリランカ南部に1月に派遣。防災ソング「おはしも」の普及、ハザードマップ作り、津波民話「稲むらの火」の読み聞かせ、お絵かきなど子どもの主体性を生かした支援を展開しています。



（熱心に絵を書く少年2006年2月）

幼稚園・保育園再建支援では、スリランカ全土の被災地5箇所で支援を行っています。1月にマータラの園舎が完成し子どもたちが学校に通い始め、他4軒も年内に完成する予定です。

漁業組合支援はスリランカ南部と北東部で展開しています。組合を設立し、組合単位で漁具などの提供を行いました。

タイでは（社）シャンティ国際ボランティア会（SVA）等と連携し、絵本「稲むらの火」を現地語で出版、SVAが運営している図書館などで読まれています。

インドでは、2001年のグジャラート地震時のカウンターパートであるSEEDSのアンダマン諸島での活動を支援しました。

イラン・ザラント地震救援プロジェクト

【2005年2月22日からの継続事業】

イラン・ザラント地震の支援において、バムの地震支援のカウンターパートであるAHKKを通して支援を行い、プロジェクトを終了しました。AHKKとザラントで活動しているNGOにより、ザラントとバムの交流事業を開催されました。被災した2つの地域の女性や子どもたち（上写真2005年11月）が、それぞれの被災地を訪れ、地震災害やそれぞれが抱えている問題などを共有しました。



アメリカ南部ハリケーン・カトリーナ救援プロジェクト

【2005年9月11日からの継続事業】

2005年9月11日にアメリカ南部で発生したハリケーン・カトリーナの支援において、災害直後に救援活動を開始した日本災害ボランティアネットワーク（N VNAD）をとおして、被災地を支援しました。その後、アメリカの子ども支援の団体であるChristian Children's Fund (CCF) を支援して、終了しました。

パキスタン北東部地震救援プロジェクト

【2005年10月8日からの継続事業】

2005年10月8日に発生したパキスタン北東部の地震に対して、発生直後の緊急支援として、10月にインドのジャンム・カシミール地方で緊急支援を行ったインドのNGO、SEEDSとパキスタンのバラコットで活動した日本のNGO、JVCを支援しました。

長期的な復興支援を模索するために、11月と3月に現地調査を行いました。震源地付近のムザファラバード、マンセラ、バラコット、バタグラム、バーグなどを精力的に聞き取り調査を中心に訪問しました。冬に入る前の生活実態から政府が発表している2006年3月末のテント撤去に伴う再定住の実態などを特定の被災者世帯を絞りながら見てきました。阪神淡路大震災および新潟中越地震でも評価された“つぶやき収集”の手法を導入し、被災地の聞き取りを重ねてきました。この結果、地域のリーダー的な人材との信頼関係なども築くことができ、今後の具体的なプロジェクト実施のための道すじができました。



（山奥の被災地 2006年3月）

中南米ハリケーン救援プロジェクト

【2005年10月からの継続事業】

中南米（メキシコ、エルサルバドル、グアテマラ等）で発生したハリケーン・スタンの支援において、募金活動を行いました。募金総額は限られていましたが、メキシコ人のクワテモックさんに全額を託してプロジェクトを終了しました。託した寄付は被災地にいる被災者の団結を呼びかけるリーフレット作成のために使われました。

フィリピン・レイテ島地滑り災害救援プロジェクト

【2006年2月17日からの継続事業】

2006年2月17日にフィリピン、南レイテ州で地滑りが発生しました。フィリピン支援をしている日本のNGOやフィリピンの現地NGO、フィリピンの政府、大学関係などでとのネットワークを生かして、直後から情報を収集してきました。

上記の報告は、総会で議論された2005年3月までの事業報告です。それぞれのプロジェクトにおける最新の情報につきましては、ホームページをご覧ください。ただ、事務局までお問い合わせ下さい。

CODEの夕べ 開催

6月17日の総会后、CODEの夕べ～楽しい食事と報告会～をサロン・ド・あいりで実施しました。CODEの若手スタッフ、ボランティア（下写真）が中心になり、ホワイトバンドキャンペーン、アフガニスタン、イラン、スリランカ、パキスタンのプロジェクト内容やジャワ島の調査報告を写真や動画を取り入れた、手作りスライドで報告しました。最後に大学生の吉田さんたちが高校の時に作成した「震災を語り継ぐ」をテーマとしたDVDが上映されました。



CODEの夕べには、理事・会員やボランティアさんを含む50人ほどが参加し、食事を食べながら、海外事業のプロジェクトの報告会に聞き入りました。



多くの皆さまにご参加いただきまして、ありがとうございました。

スタッフ飯塚明子の退職の挨拶

いつも暖かいご支援・ご協力ありがとうございます。この度私飯塚明子は、7月31日をもってCODEを退職することになりました。このような形で紙面を割くのは大変恐縮ですが、お世話になりました皆さまにこの場をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

CODEとの出会いは、翻訳ボランティアがきっかけでした。小さい頃から「どうして日本では何でも手に入るのに、アフリカでは子どもたちは飢えているんだろう」と漠然と考えていました。でも、ドキュメンタリー番組や写真に写る栄養失調の子どもたちの目を見て、瞬間的な同情を覚えたり、あえて見ないようにしたりして、学生時代を過ごしました。その後CODEと出会い、ボランティアやアルバイトをして、大学院で開発学を学ぶ過程で、NGOで働きたいと思うようになりました。

大学院卒業後、念願のCODEで働くことができ、多くのことを学びました。CODEでは、海外でプロジェクトをモニターしたり、国内で海外とやりとりをしたり、セミナーやシンポジウムの運営、会報誌の作成、ボランティアの日の運営、講演など多岐にわたる業務を他のスタッフの協力を得て行いました。

1つの団体の多くの業務に関わることは、組織全体が見え、海外と日本の両方から学ぶという点で、大変貴重な経験になりました。海外の被災地で阪神淡路大震災のことを伝えたり、CODEを支援してくださっている方々のことについてお伝えすることは、海外の被災地の人々に大きな励みになっています。一方、日本で海外の被災地についてお伝えすることから始めたいという真摯な思いを持っている日本の方々に多く接し、学生時代に感じていた初心に何度も引き戻されました。

スリランカの東部ワライチェナイの仮設住宅に津波後4ヶ月後に訪れた時、「日本から来てくれて、私たちのことを気にかけてくれてありがとう」と言って、ココナッツをふるまってくれたおじいさん。神戸学院大生と三宮で街頭募金をした際に、立ち止まり自身の震災体験を話して、募金箱にお金を落としてくれた方々。国内外において素晴らしい方々に出会い、いつも学ばせていただくばかりでした。

今後は京都大学の研究員としてベトナムのフエにおける防災のプロジェクトに3年間関わることになっています。また一からのスタートになりますが、何かの機会に恩返しができるよう、CODEで学んだことを生かし、仕事に取り組んでいきたいと思いをします。

8/24 国際機関訪問ツアー

8月24日にHAT神戸でアジア防災センター、国連人道問題調整事務所、国連地域開発センター防災計画兵庫事務所、JICA兵庫を訪れる、国際機関訪問ツアーを開催します。詳細は同封のちらしをご覧ください。

活動記録 5/21～7/15

- 5月22日 神戸学院大学で講義「社会貢献論」(村井)
- 5月26日 高砂市国際交流協会 国際交流講演会(飯塚)
- 5月28日 ボランティアの日(CODE Letter第29号発行)
- 5月29日 神戸学院大学で講義「社会貢献論」(村井)
- 5月30日 IRP(国際防災復興協力)シンポジウム(村井)
- 6月1日 大阪香英女子短期大学で講義(飯塚)
- 6月2日 ABCラジオ
「おはよう!ニュース探偵局」出演(村井)
- 6月8日 神戸学院大学オープンカレッジ 大西健丞氏
- 6月12日 神戸学院大学で講義「社会貢献論」(村井)
- 6月17日 2006年度総会とCODEの夕べ
- 6月20日 YMCA神戸でジャワ島中部地震報告会(吉椿)
- 6月22日 神戸学院大学オープンカレッジ 熊岡路矢氏
- 6月28日 神戸大学・都市安全研究センター
インドネシア・ジャワ島中部地震緊急調査報告会(村井)
- 7月3日 神戸学院大学で講義「社会貢献論」(村井)
- 7月4日 宝塚市立中央公民館主催の講演(飯塚)
- 7月8日 三重県防災ボランティア・コーディネーター養成講座でジャワ島中部地震報告(村井)
- 7月11日 コープこうべ三田西コープ委員会でパキスタン・アフガニスタン・ジャワ報告(村井)
- 7月12日 市民のための防災・危機管理カルチャー
「災害ボランティア」(村井)

ありがとうございます 5/21～7/10

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人：島田誠(兵庫)、三島宣彦(東京)、春日千明、桑原健一(以上茨城)上川正(岡山)
団体：(株)共立サービス(兵庫)

会員

・正会員

個人：浅野寿夫、青田良介、明石和成、草地とし子、島田誠、西正興、野崎隆一、橋口文博、松本誠、(以上兵庫) 榛木恵子(大阪)

・賛助会員

個人：岡崎博子(兵庫) 菊田歌雄(大阪)
NPO：NPO法人ふぉーらいふ(兵庫)



プロジェクトニュース

・インドネシア
・アフガニスタン ・ホワイトバンド

CODE海外災害援助市民センター
〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
Tel: 078-578-7744 Fax: 078-574-0702
e-mail: info@code-jp.org
URL: http://www.code-jp.org/

ジャワ島中部地震救援ニュース（2006年5月27日～）

第一次調査団派遣報告

5月26日に発生した地震を受けて、支援プロジェクトを開始しました。阪神淡路大震災の30分の1の強さの地震でしたが、約6000人もの人々が亡くなり、約150万人の人々が被災しました。震災後1週間の被災地の状況と中長期的な復興支援の調査のため、第一次調査団2名を6月3日から12日まで被災地に派遣しました。



（被災地の様子）

古都であるジョグジャカルタには伝統的な文化（人形劇、パティック、陶器、舞踊など）が息づいており、それを支える人々も今回の地震で多くが被災しています。また被害の大きかった農村部のバントゥル県、クラテン県は経済的には決して裕福とは言えないエリアですが、そこには豊かな田園と強いコミュニティ力があり、互いに助けあいながら今日を過ごしています。

また、注目すべきは現地の学生のボランティアがかなり組織的に動いている事です。緊急的な物資配給から子供達へのトラウマケアや仮設住宅（学校）の再建などの復興支援にもかかわっていくようです。現地にある地域力、文化を生かし、日本のボランティアと連携しながら、これからの長くなるであろう復興への道程のお手伝いできればと思います。今後の復興プロジェクトの内容としては、耐震住宅の普及、伝統文化を通じた防災共育の伝搬、地域地場産業の支援などを計画しています。



（学生のボランティアリーダー）

報告は随時ホームページに掲載してありますが、何かご不明な点、ご質問がありましたら何なりと事務局までお問い合わせ下さい。

アフガニスタン報告ぶどう畑再生プロジェクト（2002年7月～）

治安について

現地のパートナーであるラフマンさんからのメールによると、アフガニスタンの治安は依然よくありません。特にアフガニスタンの北部と比べて南部や南東部は、治安が悪化しているとのことです。ですが、ぶどう畑再生プロジェクトを行っているミールパチャコットは安全で、特に問題はないそうです。

ぶどう畑の様子

ぶどうの木は秋の収穫に向けて、すくすくと育っているという報告がありました。ぶどう農家の人々は木に水をやるなどして、畑の手入れをしています。ぶどう畑は焼き討ちにされる前の状態に戻りつつあり、よくなってきています。年々ぶどうの木が大きくなるにつれて、木の枝が増え、収穫量が上がっています。再度行われたカレーズ（地下水脈）の清掃により、水の状態もよくなってきているそうです。

女子学校支援

ミールバチャコットには戦争後、2つの女子学校が建てられました。CODE が支援している学校は、6歳から12歳までの生徒と13歳から20歳までの生徒が約1400人勉強しています。

この学校では6歳から12歳までの少女は外で勉強しています(上写真)。しかし、アフガニスタンはイスラム教の国なので、女子が外で勉強するには壁に囲まれていなければなりません。このような文化・慣習的な理由から早急に壁を作ってほしいと、ミールバチャコットの治安警察やシューラ(村の評議会)学校の先生たちに強く懇願されたことを受けて、学校の壁の建設がCODEの支援により行われています(下写真)。この壁は7月に完成する予定で、地域住民全員が壁の完成を心待ちにしています。

よみがえれ アフガニスタン!



ホワイトバンドキャンペーン(2005年9月~)

「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン(通称ホワイトバンドキャンペーン)は、去年の夏からホワイトバンドをシンボルに「世界の貧困を解決するために声をあげよう!」と世界90ヶ国以上で行われている「貧困をなくすグローバルコール:GCAP」の日本国内キャンペーンです。

ホワイトバンドに込められた意味は、「世界のまずしさは克服することができる。この世界にはそのための資源や情報がすでにある。必要なのは『貧困を世界の優先課題にする』という意志をもつこと」です。ですから、G-CAPは、2005年に世界中の多くの人たちがホワイトバンドをつけてその意志を世界に示すことで、貧困問題の解消に積極的に取り組むように各国政府や国際機関に訴える大規模なキャンペーンを展開してきました。キャンペーンの提言内容は以下の3点です。

- 最貧国の債務を免除する。
- 援助の質を高めて量もふやす。
- 貿易を公正にする。

この世界的な市民キャンペーンの結果、最貧国18ヶ国が先進国から負っている借金の帳消しや援助の増加などさまざまな成果をもたらしました。日本政府もアフリカに対する援助額を3年で倍にする約束しました。今後は2008年に東京で開かれるG8サミットに向けて、声を上げていきます。

CODEは去年の9月以来、ホワイトバンドキャンペーンの賛同団体になり、ホワイトバンドを販売したり、イベントを行ったりしてきました。多くの方々にご購入いただき、今年6月までに2099本のホワイトバンドを販売しました(入荷本数2300本、在庫201本)。この場をお借りしてお礼申し上げます。CODEを通してご購入いただいたホワイトバンドの売上用途は次のようになっています。但し、東京のホワイトバンドキャンペーン事務局から購入した場合、その売上金は主にアドボカシー活動(キャンペーンを推進するための政策提言活動)に使われ、賛同団体から購入する場合と使い道が異なります(<http://www.hottokenai.jp/>)。

ホワイトバンド1本(300円)あたりの売上用途

2005年10月末まで

- ・100円・・・キャンペーン事務局からの買い取り価格(合計180,000円)
- ・100円・・・アフガニスタンのぶどう基金(合計180,000円)
- ・100円・・・アメリカのハリケーンカトリーナ支援(合計180,000円)

2005年11月以降(合計は2006年6月末まで)

- ・100円・・・キャンペーン事務局からの買い取り価格(合計29,900円)
- ・100円・・・アフガニスタンのぶどう基金(合計29,900円)
- ・100円・・・国内事業費(合計29,900円)

あと200本ほど在庫がCODEにありますので、ご希望の方は事務局までご連絡下さい。今後ともよろしく申し上げます。

